

1 学校教育目標

生命尊重と人間尊重の精神を基調とし、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会に活躍できる「徳・知・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。
 ・活発で礼儀正しい生徒 ・自ら学び、粘り強く努力する生徒 ・心身ともに健康で、心豊かな生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい中にも温かさを感じさせる学校 ・一人ひとりの生徒の良さを伸ばす学校 ・地域・保護者・生徒に信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に学び、難しいことにも挑戦する生徒 ・礼儀正しく、自らの考えを表現できる生徒 ・自らを律し、夢に向かい自立していく生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を愛し、深く理解し、惜しめない指導と支援を行う教師 ・授業力向上に取り組む、指導と評価の工夫・改善をめざす教師 ・組織の一員として建設的な提案をし、積極的に実践する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉創立当時の伝統が引き継がれ、保護者・地域が学校支援に力を注いでくれる。PTA本部役員をはじめ多くの保護者は学校に対して協力的である。「開かれた学校づくり協議会」の委員を中心として、地域の学校への思いは強く貢献的である。生徒は全体的に明るく、人情味がある。多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、集団行動の質が高まっている。生徒会を中心に校風・良き伝統づくりのために努力している。教員は主幹教諭・指導教諭を中心に教育活動が機動的に行われている。一方、課題としては学校の特色化と魅力ある学校づくりが必要である。昨年度はコロナ禍のために、様々な取り組みが中止や延期となった。さらに学校改築に伴い、教育環境を維持し、生徒がいろいろな活動に積極的に取り組める環境整備が求められている。また、一部の生徒で規範意識が低い生徒が見られる。今後、様々な場面を通して規範意識を高めるとともに、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育てる必要がある。特別な支援が必要な生徒に対しては、「青葉ルーム」を活用し、関係諸機関と連絡をとりながら支援していく。

〈前年度の成果と課題〉魅力ある学校の創造に、学校・PTA・地域が一体となり努力を重ねた結果、学校の教育活動を肯定的に評価する生徒・保護者が多い。今後も一層の教師の指導力・授業力の向上を図り、規範意識や思いやりの心を育み、安全で健康な生活への意識向上を図ることが必要である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	基本的な生活習慣の定着と心の教育の充実を図る	○	○	○		
3	魅力ある学校づくりと教育環境の維持を図る	○	○	○		

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学びの基礎・基本を定着させ学力向上を図る。		年度末到達度テスト 正答率65% 3年度区学力調査 目標通過率65%		年度末到達度テスト正答率 1年国74%、数53%、英62% 2年国67%、数52%、英63% ※区学力調査と同じ調査問題を一つ下の学年で2月に実施		年度当初の通過率は1年74%、2年64%、3年62%であった。授業時数を確保し、既習の内容が定着するように各教科で工夫した。学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	数学チーム ティー チング	全学年 数学科	通年 全授業	【指導体制】授業2名体制 【取組内容、ねらい・目的】 授業内容の理解が不十分な生徒に、適切な個別指導	数学授業 アンケート	授業に意欲的に取り組めた生徒の割合を80%	数学の「学習意欲がある」と肯定的にとらえた生徒は92%と、高い水準にある。	講師によるTTを全学年で実施し、大半の生徒が意欲的に学習している。	◎
2 継続	放課後補習 教室 (AST)	全学年 英・数 正答率低 い生徒	AST 補充日 放課後 20分	【指導体制】学年教員 【取組内容】演習を中心に 個別もしくは少人数指導。 【使用教材】自作教材	定期考査 (後期期末)	正答率40%を 通過する割合 が8割以上	正答率40%の目標値を通過した生徒は1年数72%、英75% 2年数65%、英76%	引き続き来年度も実施し、学習が定着していない生徒の学力を高める。	○
3 継続	サマー スクール	全学年 国社数 理英 全員	7月 下旬	【指導体制】学年教員 【取組内容、ねらい・目的】 演習をクラスごとに実施。 【使用教材】自作教材	定期考査 (前期期末)	基礎・基本を定着させ、50点に満たない生徒を30%未満。	得点が50点に満たない生徒は1年24%、2年33%、3年33%であった。	目標には到達しなかったが、コロナ禍の中で、実施できたことに意義がある。	○
4 継続	学習コン クール	全学年 国社数 理英 全員	年1回 ～3回 朝学習 の時間	【取組内容、ねらい・目的】 基礎学力に関するテスト を行う。基準未滿の生徒には放課後学習を実施する。	各教科 学習テスト	達成基準は各教科により異なる。	各教科で1回、学習コンクールを実施。	生徒の学習意欲を高めているか検証して来年度の計画を立案する。	○
5 継続	家庭学習 の定着	全学年全 員	年4回 7月、 9月、 11月、 2月	【取組内容、ねらい・目的】 テスト勉強を機に自学自 習の習慣化を図る。2週間 前を家庭学習定着期間と 家庭学習記録表等で確認	家庭学習実施 状況調査	テスト前の調査期間に1日平均2時間学習できた生徒を70%にする	調査期間では65%であった。それ以外の平日では、2時間以上20%、1時間半以上55%であった。	平日では家庭学習2時間以上の生徒が2割にとどまっている。今後の改善が必要。	△

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上を図るために、教員の指導力を高める。	・各教科で主体的で対話的な深い学びができています。授業評価で「授業が分かりやすい」「授業に意欲的に取り組んだ」と肯定的に答える生徒が8割以上	・各授業で下記の項目に沿った授業展開を行う。 ① ねらいの明確化 ② 主体的な活動 ③ 授業の振り返り ・OJTを推進し互いに授業研修を行い、指導力を高める。	・5科で「授業が分かりやすい」と肯定的に答える生徒は92%以上、「授業に意欲的に取り組んだ」と答える生徒が94%以上。 ・年2回、指導案を提出させる授業観察を実施。「学校は学力向上に積極的である」に対して肯定的な回答をした保護者は79%であった。	・継続して、授業改善に取り組む。足立スタンダードは定着し、対話的で深い学びを工夫して取り入れたい。 ・OJTの趣旨を踏まえた校内体制の一層の充実を図る。	○

重点的な取組事項－2	基本的生活習慣の定着と心の教育の充実を図る
-------------------	-----------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活指導が全ての教育活動の根幹であるとの考えのもと、基本的生活習慣の定着、規範意識の向上、いじめを許さない心の教育を充実させる。	生徒および保護者アンケート調査で「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた割合が8割以上	「学校に行くのが楽しい(様子)」と答えた生徒は85%、保護者も同様に85%	一昨年の1年生は7割程度だったが、3年生になり、86%まで上昇した。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的生活習慣を確立し、規範意識を向上させる。	・常にきちんとした服装・頭髪を心がけさせ、「基本的生活習慣が向上した」と答える生徒80%以上 ・学校や社会のルールを理解し、守ろうとする。	・月1回の身だしなみ点検や朝のあいさつ運動を実施する。生徒指導では教職員が共通理解のもと共通実践する。 ・「素直な心」「我慢する気持ち」「規律ある生活態度」を掲げ、規範意識の向上に努める。	・「基本的生活習慣が今までより身についた」として「とても、少し」と答えた生徒は8割を超えた。また、保護者も肯定的回答が88%と4ポイント上昇した。 ・あいさつ運動は、コロナ禍で、積極的に取り組めなかった。	・8割の生徒が身についたと考えており、身だしなみ点検で指導が必要な生徒は少ない。 ・遅刻は減っているが、今後も指導の継続が必要である。	○
悩みを抱えている生徒に適切な対応を行う。	・いじめが発生したときに早期の対応を行う。 ・特別支援教室に通っている生徒の授業満足度が70%以上。 ・年度末、登校できない生徒を10名未満。	・いじめ調査やQ-U調査を実施し、いじめ防止に努める。 ・特別支援教室の充実を図り、通級生徒のコミュニケーション能力を高める。 ・SC会議を週1回開き、スモールステップで対応する。	・Q-Uを2回実施し、生徒理解に努めた。いじめと思われる生徒間のトラブルは、早急な対応を行い、重大事案になることを防いだ。 ・青葉ルームの満足度は8割。 ・30日以上欠席をした生徒は14名で、昨年度に比べて減少しているものの、高い水準である。	・Q-Uの分析結果を活用。いじめには教員がアンテナを張り、早急な対応を心がける。 ・能力向上に努める。 ・改善が必要。来年度は30日以上欠席数を10名未満とする。	△
心の教育を推進する。	・道徳の授業をさらに改善・充実を図り、思いやりのある生徒を育てる。	・評価ではポートフォリオを活用する。道徳授業の研究授業を実施する。	・道徳の時間の充実を図るため、研究授業を2回実施した。指導方法や評価の共通理解を深めた。 ・コロナ禍のため、ボランティア活動をする機会が少なかった。	・来年度も、道徳授業の改善を推進する。 ・来年度は、全員がボランティア体験できる機会を設ける。	○

重点的な取組事項－3		魅力ある学校づくりと教育環境の維持を図る			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校の特色を鮮明にして、魅力ある学校を築く。仮設校舎であるが、できる限り教育環境の維持を図る。		本校の取組を、保護者および「開かれた学校づくり協議会」へのアンケート調査で肯定的回答が7割以上。	入学してよかったかというアンケートでは、生徒92%、保護者88%が肯定的に受け止めている。昨年度よりともに向上している。	・コロナ禍のため予定していたキャリア教育等で実施できなかった取り組みがあった。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ゲストティーチャーによる講演会を行い、広い視野で自ら生き方を考えさせる。	・学年毎に、成長段階に応じた学びに関する講演会を年2回実施する。	・前期はキャリア教育として経済同友会や留学生による講演会を、後期は個性の伸長や自己をみつめることをテーマとした講演会を開催。	・ゲストティーチャーによるキャリア教育を実施した。 ・後期はPTAと学年ごとに進路学習の講演会を予定、2つの学年で実施できた。	・来年度は、生徒の実態に合ったキャリア教育を展開したい。 ・生徒が自らの進路を考える契機となった。	○
読書教育の推進	・年間読書10冊以上の生徒を50%以上	・年間を通して朝10分の読書を継続させ、読書教育の啓発活動を行う。 ・ビブリオバトルやポップ作りを特活の中に取り入れる。	5冊以上読んだ生徒は5割であったが、10冊以上の生徒は3割にとどまった。 ・文化祭でビブリオバトルを行い、全校での啓発を図った。	・新校舎では図書室が充実しており、これを活用し、読書の啓発を図る。	△
生活リズムの向上と食育の推進を図る。	・年度末の調査で朝食取得率が95%以上 ・「ベジファーストを意識して食事をしている」と答えた生徒70%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん」の調査を年2回行う。 ・日頃から啓発活動を行う。特活で自らの食について考えさせる機会をもたせる。	・2回のアンケートを通して、朝食の摂取率は92%だった。 ・「ベジファースト」については、68%の生徒がサラダから食べていた。「給食メニューコンクール」等の取組にも積極的に参加した。	・朝食に関しては、2回ともほぼ同じ生徒が摂っていなかった。保護者の理解が必要。 ・ベジファーストの意識は高まっている。	○
感染症予防が強く求められる中でも、魅力ある教育活動を行い、発信する。	・スポーツやカルチャーイベントを年間5回以上開催する。 ・学校の様子を保護者や地域に毎日発信する。	・「開かれた学校づくり協議会」と連携し、イベントやボランティア活動を推進する。 ・HPを毎日更新し、生徒の様子や様々な情報を伝える。	・協議会との取組はできなかった。コロナ禍の制限はあったが、スポレクや文化祭を実施した。 ・毎日、ホームページを更新し、学校の情報等をお知らせした。	・状況を見て、ボランティア活動を再開。 ・今後も、地域の一員として活躍できる生徒を育てていく。	○
仮設校舎であるが、できる限り教育環境の維持を図る。	・登下校時の交通トラブルをゼロにする。 ・学校行事や部活動では生徒が満足できる環境を整える。	・通学路の安全を図るとともに、安全指導を充実させる。 ・近隣小学校や大学、区施設の協力を得て、活動場所を確保する。	・交通指導員を配置していただき、事故は発生していない。 ・帝科大等の協力により活動場所を確保し活動することができた。	・仮設校舎での学校生活を終え、新校舎で充実した学校生活を送らせたい。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【今年度の成果】タブレットなどICT機器の活用も進み、「授業が分かりやすい」と肯定的に回答した生徒は9割を超えている。また、ほとんどの生徒が授業に意欲的に取り組んでいる。自分の思いや考えを表現し伝える力の育成が進んだ。

【次年度に向けた課題】区の学力調査では、全学年平均としては通過率が目標値に達した。しかし、一方では基礎学力が不足している生徒がいる。その原因としては、家庭学習が定着していないことが大きいと考えられる。また、読み解く力が不足している生徒も見られることも課題である。

【解決の方向性】数学では全時間でTTを実施し、できる限り授業時間に習得できることをめざす。英語では放課後のASTを活用し、補充的な学習を充実させる。国語では教科指導を通して読書習慣を育成し、総合的な学習の時間でビブリオバトル等を取り入れ、さらに新校舎となり、図書室が充実したことから読書教育の充実を図りたい。また、家庭学習については保護者の協力を得て一層の啓発を進めるとともに、今後も放課後のASTを活用した各種コンテスト等の計画的な実施を継続して行う。

イ 基本的生活習慣の定着と心の教育の充実について

【今年度の成果】遅刻ゼロ運動や身だしなみ点検を実施し、ほとんどの生徒が基本的生活習慣を身につけている。いじめと思われる行為に対しては早急な対応を行い、重大事案になることを防いだ。道徳などいろいろな場面で、生徒の心の教育が推進された。

【次年度に向けた課題】一部の生徒に、規範意識が身につけていない生徒がみられる。特別に支援が必要な生徒も多くみられる。また、不登校傾向のある生徒も多く、適切な対応が求められる。

【解決の方向性】生徒の問題行動に対して、状況を的確にとらえ、生徒の心情を踏まえながら指導していく。特別に支援が必要な生徒に対しては、「青葉ルーム」を活用し、コミュニケーション力を高めていく。不登校の生徒を減らすため、関係諸機関と連携しながらスモールステップで対応していく。個別に対応を考え、保護者と協力しながら、一人でも、一日でも多く登校できるように、教職員が協力して取り組む。

ウ 学校の特色化と魅力ある学校づくりについて

【今年度の成果】コロナ禍のために、いろいろな行事に制約が加わったり、実施が困難になったりした。限られた行事の中ではあるが、生徒が全力で取り組む姿がみられた。朝食の摂取やベジファーストなど食育の推進を継続して行うことができた。学校改築に伴い、様々な課題があったが、その都度、最善の策をとり、教育委員会と連携しながら、新校舎で授業をすることができた。

【次年度に向けた課題】引き続き魅力ある学校に向けて、学校の特色化を図る。さらに、新校舎の施設をいかに有効に使い、成果に結びつけるかが大きな課題となる。

【解決の方向性】開かれた学校づくり協議会と連携し、行事や取組の中で保護者や地域の声を反映していく。コロナ禍を通して学んだことを、行事やその内容の精選に結びつける。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

【保護者の皆様へ】

千寿青葉中学校の教育活動は、保護者の皆様のご支援とご協力、さらに学校との協働により支えられています。私たち教職員は、生徒の実態をふまえ、保護者・地域の皆様の要望にできる限り応えられる教育を展開していく所存です。自分の夢に向かって「自立」する生徒の健全育成のためにご理解とご協力をいただければ幸いです。

【地域の皆様へ】

皆様の協力を得て、素晴らしい校舎が完成しました。これからも地域の学校であることを自覚し、地域の皆様の学校に対する熱い思いや願いに応えることができるよう努力してまいります。2年間、コロナ禍のために地域との連携がほとんどできませんでした。来年度は開かれた学校づくり協議会とともにいろいろな取り組みをしていきます。今まで以上に地域に信頼される学校を作ってまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。